

## 三角西港で「坂の上の雲」のロケ NHKがロケの協力を要請

NHKのスペシャルドラマ「坂の上の雲」のロケが、今年の5月下旬から6月上旬にかけて、宇城市の三角西港や熊本城内の細川刑部邸などで行われることになり、4月3日、NHKの菅康弘チーフ・プロデューサーらが市役所を訪れ、阿曾田清市長にロケの概要を説明、協力を要請しました。

「坂の上の雲」は故司馬遼太郎さん原作。明治という時代に立ち向かった人々の青春群像劇で、日露戦争で海軍参謀を務めた秋山真之を本木雅弘、その兄好古を阿部寛、正岡子規を香川照之さんが演じます。

明治時代の横浜港のモデルとして三角西港が選ばれ、真之や友人の正岡子規が横浜港を訪れる場面を収録します。200人以上のエキストラを動員するほか、台船を使い海上からも撮影。最新の映像技術も駆使して明治の横浜港のにぎわいを再現します。

菅チーフ・プロデューサーは「三角西港は、明治時代の代表的な港湾建築の貴重な遺産。物語の舞台ではないが、宇城市を全国に伝えられれば」と話していました。



横浜港のモデルとなる三角西港



阿曾田清市長にロケの概要説明と協力要請がありました

## お世話になった地域に恩返し ひよっとこ面で“笑い”を提供



熊本市内からの来客に対応する上村さん(右)

元JR小川駅長の上村敏昭さん(小川町)は、「市民の人たちの笑いを広げ、暗い世の中を一掃したい」と8年ほど前からひよっとこの面作りを始めました。紙粘土などを混合して製作。おかめやきつねなどの面もあり、顔の表情はそれぞれ違います。今では口コミで広がり、県内外から注文が殺到、テレビの取材も幾度かあったということです。

上村さんは、「小川町に来て18年。今までいろいろな方にお世話になった。安価で提供しているので赤字だが、地域の人たちへ少しでも恩返しできたら」と語っていました。

## 公共交通のアクセスの向上・強化に努める 都市間バス「あまくさ号」 三角駅前乗り入れ

4月7日にJR三角駅で都市間バス「あまくさ号」の本駅乗り入れ実証実験に関するセレモニーが開かれました。県では、平成23年に迫った九州新幹線全線開業を見据え、熊本を訪れる人が県内各地に向かう際に利用する公共交通のアクセスの向上・強化に努めています。その一つとして、3月15日から都市間バス「あまくさ号」のJR三角駅前乗り入れの実証実験が始まりました。本セレモニーはそれを記念して開催されたものです。



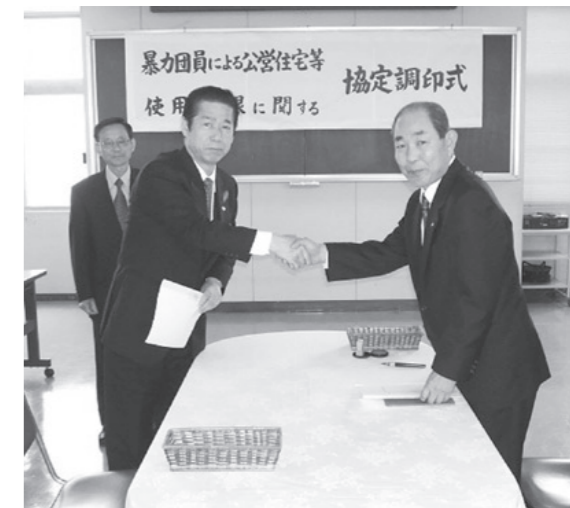
JR三角線から天草・本渡へのアクセスが便利に

## 市民の安全・安心確保のため 市営住宅等の公共施設から 暴力団を排除

4月3日、市と宇城警察署は、市営住宅などから暴力団員を排除するための協力協定書を締結しました。今後、市営住宅入居希望者や既存入居者について、必要に応じて同署に照会し、暴力団員と判明した場合は入居を認めないこととなります。

3月市議会において、暴力団排除に係る措置を明確にするため、市営住宅管理条例および改良住宅条例の一部改正が承認されています。調印式では、宇城警察署管内の2市3町の市長、町長が協定書に署名し、これと併せて宇城市は、公共施設の暴力団排除についての協力協定にも締結しました。

4月から県警より市に派遣されました園田浩二・総括審議員(警部)の協力を得ながら警察との連携を密にし、すべての公共施設から暴力団を排除することで、市民生活の安全と平穏を確保していきます。



力を合わせて暴力団排除に取り組みます

## 県下最大の商工会が誕生 宇城市商工会開所式



本所(旧不知火町商工会)前でテープカットがありました

宇城市の5つの商工会が合併し、平成20年4月1日に「宇城市商工会」本所となる旧不知火町商工会で開所式が行われました。

平成17年1月15日に宇城市が誕生して以来、旧5町の商工会関係者が合併に向けて協議を重ね、この日の開所式で県知事から合併認可書の伝達を受ける運びとなりました。

この合併により新しく生まれた宇城市商工会は、会員数1,407人の県下最大の商工会となり、旧不知火町商工会が本所と不知火支所を兼ね、旧三角町・旧松橋町・旧小川町・旧豊野町の各商工会事務所が宇城市商工会の支所となります。

## 働正さんと働淳さんの親子里帰り展 ある軌跡—追悼・働正 詩と舞踏の集い

平成8年に他界した働正(はたらきただし)さんは、不知火町松合の出身。前衛美術家集団「九州派」で活躍した画家であり、装丁・文筆活動などで多方面に活躍していました。4月、働正の息子で画家・詩人などさまざまな表現活動に取り組んでいる働淳(はたらきじゅん)さんと親子里帰り展が不知火美術館で開催されました。

6日には、没後13回忌の追悼公演「ある軌跡—追悼・働正詩と舞踏の集い」があり、会場となった展示室は幻想的な雰囲気が漂う舞台となり、詩の朗読(働淳さん)・舞踏(山口千春さん)・音楽(働暁子さん)の3人による独特の世界に包まれていました。



来場者にあいさつする働淳さんたち